

⑥ 今井四郎兼平形見石

脚本：原 勝美 (下新田) 絵：伊藤 きくみ

下今井のお宮（諏訪神社）の境内に「今井四郎兼平形見石」が祀られています。兼平が出陣の折残した物と伝わりますが、詳細は不明です。明治時代の初め頃、北耕地の五行田の林を開墾中に偶然掘り当てました。移動させようとしたが西の方にしか動かなかったため、西の方角に有った八幡様の境内にお祀りしたといわれます。その後大正4年八幡様が諏訪神社に合祀された折、現在地に安置されました。それ以外何の伝承も有りませんが、兼平の青年時代を形見石に絡めて能楽風な物語にしてみました。



ある秋の日の夕暮、都より旅の僧が形見石に詣でるため、はるばる今井の里まで訪ねてきます。その僧の前に兼平の帰りを待ちわびる彼の妻の怨霊が現れます。遙かな昔、兼平との馴れ初め、在原業平の筒井筒を贈られた事、今井での暮らしをしみじみ語り始めます。この妻女を不憫に思った僧は、村人夫婦の願いを聞き入れ妻女を成仏させるという、少々幻想的な物語です。

子どもに伝えたい
今井昔話が
紙芝居に
なりました③

今井ふるさと歌留多の会を中心に制作された紙芝居を紹介いたします。この紙芝居は保育園・小学校・児童センター・福祉ひろば・公民館などで上演しており、最近ほ町会や高齢者の皆さんの行事にも出張しています。ご要望があれば今井公民館までご一報ください。

かんぼう
ま
No.339
今井公民館
館報編集委員会
電話 59-2001
FAX 59-1004

⑧ 今井四郎兼平・開拓編

脚本：原 勝美 (下新田) 絵：伊藤 きくみ

前作「今井四郎兼平形見石」に続く今井四郎兼平完結編です。前作は創作した物語ですが、本作は書物、伝承を主体に兼平の今井での開拓の足跡を追ってみました。兼平が今井に入った年代には諸説ありますが、治承4年（1180）の木曾義仲の旗挙げには馳せ参じている事でしょうから、この年の前後に今井を発ったというのが妥当でしょう。この時まで兼平は今井の開拓に従事します。兼平神社・若宮八幡・薬師堂・西洗馬光輪寺・宝輪寺・堀村・北耕地八幡社・野尻の開拓と権現の城等今井各地の伝承・今井周辺地区に伝わる伝承を基に兼平の開拓を物語にしてみました。武人・豪傑としての今井四郎兼平の戦いの様子等は広く書物などで知られるところですが、本作は今井を開拓した兼平の物語です。



⑦ 招雨の鷹

脚本：篠田 陽 (野口) 絵：桃井 枝里子 (南耕地)

下今井のお宮（諏訪神社）にあった、「招雨の鷹」と呼ばれる鷹の剥製にまつわる物語です。戦後14、5年経った、まだガキ大将が幅を利かせていた頃のお話です。

子供達が朝日の山の大きな樺の木で鷹の雛を捕まえてきました。カエルを捕まえて食べさせたり、その無い時には鯨の肉などを与えたり、家中で可愛がっていました。鷹も良くなつき鎖から放しても帰ってくるようになりました。ある日照り続きの夏の事です。鷹が鎖を付けたまま姿を消してしまいました。日照りは続き、お宮で雨乞いが始まりました。すると雨が降り始めました。空を見上げると桧の峰に足に鎖を付けた鷹が止まっているではありませんか。鷹が雨を呼んできたのです。



スポーツ講演会

12月9日(日)、スポーツライターの元川悦子さんを今井公民館にお迎えして、「松本山雅の過去・現在・未来」と題してスポーツ講演会が行われました。



今井地区以外からの聴衆も含めて、85名が熱心に聞き入っていました。

まずは、同日に行われた記念パレードや優勝報告会での様子を、動画を交えて話してくれました。

また、地域リーグ時代から現在までの変遷と、JFL、J2とクラスが上がるにつれて、自治体などからの協力の体制が整ってきて、練習場やクラブハウスなどの施設面が少しずつ改善してきたことの説明がありました。

て根付かせるためには、欧州の人口10万人ほどの小さな自治体にも中心部にサッカースタジアムがあり、それを中心として街づくりをしているということを参考にすることも必要だと、元川さんは締めくくっていました。

アミーゴス今井 祝勝会



スポーツ講演会の後、今井地区における松本山雅の応援組織「アミーゴス今井」の祝勝会が行われました。

つがやま No.273 「シニアの挑戦」 雄村 鐵 (中) 宮本

日本では75歳以上を後期高齢者と呼び、松本市では75歳以上を高齢者と呼びましょうと言います。

両方に該当する年齢ながらも、高齢者らしく、もう高齢者だから、と年齢に縛られたくはありません。

脳科学者の茂木健一郎氏に

子ども祝勝会に残ってくださり、参加者は松本山雅への想いを口々に熱く語り、親睦を深めていました。



12月9日(日)、クリスマス会が開催され、35名が参加しました。

子ども会育成会 もちつき大会

1月4日(金)、もちつき大会が開催され、9名の子どもたちが参加しました。重

い杵に悪戦苦闘しながらも、自分でついたおもちの味に大満足の様子でした。



| 世帯数 | 人口 | 増減 |
|--------|-------|----|
| 一、五五三戸 | 一、八八六 | 減 |
| 二、〇二五人 | 一、八八六 | 減 |
| 三、九一一人 | 一、八八六 | 減 |
| 四、一一人 | 一、八八六 | 減 |

- ★優勝 東耕地
 - ★準優勝 西耕地
 - ☆第3位 教員チーム
- ソフトボールリーグ閉幕

よれば生物年齢と脳年齢とはあまり関係が無く、ときめいたり、ドキドキしながら脳の回路を十分に使うことで脳の若さを保てると言います。

そこで若さを保つための私の三つのキーワード。

まずは好奇心。新聞・テレビ・雑誌等から何にでも興味を持ち気になったら直ぐに調べる。次にときめき。興味を持った中でときめきを感じ



たものを拾い出します。前述の茂木氏によれば異性に対するときめきが最善だと言います。最後に挑戦。ときめきを感じたら兎に角失敗を恐れず挑戦する。

そんな中でときめき続けている主なものにパソコン・写真・俳句・スポーツボイスがあります。

これからも体力を維持しながら、更なる素敵なときめきに出逢えることを夢見て。

アクティブシニアの挑戦!!

平成最後の年が明けて、松の内も「あっ」と言う間に過ぎ去った。松の又も光陰矢の如く高浜虚子の句で実感がありません▼俳句を始めて数年が経ちました。近頃TV、新聞等の影響でしようか、俳句ブームとなり芸能人等の上手な句のランクづけをしてお茶の間を賑やかにしています▼自分は一向上達せず句会の当日に慌てている状態で拙い句の連続でなさない事です▼昨年の秋偶然「柿花火」の季語を知りました。確かに沢山の柿が取り入れられることなく木にそのまま残っており、青空に柿の色が映えてとても美しく、見慣れていた景色なのに感激に変わりました▼日本の四季の移ろいに季語が大切な役目をしていると感じ、まだ先の秋に句ができたらいいなと思います。皆様この冬まず手始めに「俳句歳時記」を手許にページをめくれば新しい発見があるかもしれません。

例えば「甘酒」が夏の季語だったりです▼福祉ひろばで楽しく句会を開いています。どなたでも興味のある方は身構えず一緒に仲間になりましょう。

(Y・E)

